

# アジア・新興国 ～中国の景気減速の余波を受けるアジア～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹(にしはま とおる)



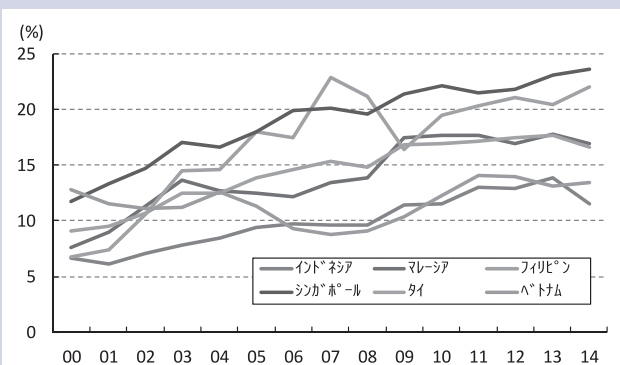
## 中国の景気減速によりアジア新興国も地盤沈下

国際金融市場においては、中国経済を巡る不透明感に注目が集まっている。文字通り近年は世界経済の「けん引役」になってきた中国経済の行方は、世界経済にとっても無視し得ない。その一方で、足下で非常に気掛かりなのは中国経済の減速によって、世界経済の成長センターとして期待されてきた新興国、とりわけアジアに悪影響が出ていることである。このところのアジア新興国を巡っては、年内にも米国が利上げを実施すると見込まれるなか、それに伴って世界的にマネーが米国に回帰するとの見方が強まっており、海外資金の流出の動きが強まっていた。そうした状況下で中国景気の減速感が強まったことで、アジア新興国から中国への輸出が大きく下押しされ、アジア新興国でも景気減速が意識されるなど地盤沈下に似た状況に陥っている。中国は加工組立型産業による輸出主導で経済成長を実現してきたが、近年は中国国内での賃金上昇や人民元相場の上昇が重石となり、川上の分野などがアジア新興国に移管されるなど、アジア新興国は中国の生産メカニズムに組み込まれた。結果、アジア新興国ではここ数年輸出に占める中国向けの割合が拡大することで、中国に対する依存度を高めてきた。こうしたことから、足下における中国の景気減速は翻ってアジア新興国にとっても足かせになっている。

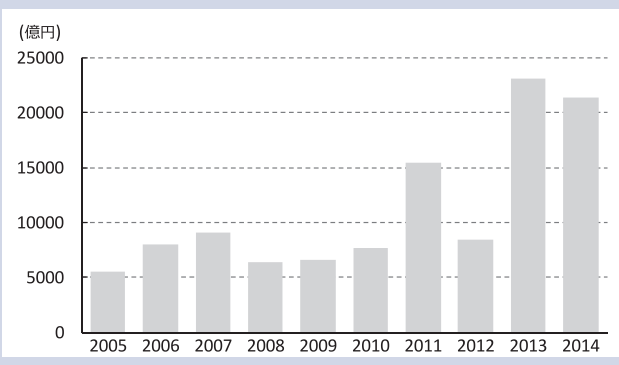
## アジアの景気減速はわが国にも思わぬ痛手に

中国の経済成長が一時の勢いを失うなか、世界経済にとってはアジア新興国が「次なる成長センター」と見做されていただけに、中国の景気減速がアジア経済の足かせとなっていることは、様々な面で悪影響が出ると予想される。わが国においてはここ数年、政治など様々な面で「チャイナリスク」が高まるたびに、中国に代わる新たな製造拠点である「チャイナプラスワン」としてアジア新興国を目指す動きが強まってきた。さらに、ここ数年の経済成長により、アジア新興国では中間層が拡大するなど購買力が向上していることを受け、新たな消費市場としてみる向きも強まっている。結果、近年は円高によって日本国内での生産が難しくなってきた流れなども追い風に、わが国からアジア新興国向けの直接投資は拡大基調を強めてきた。しかしながら、「チャイナプラスワン」として取り組んできた動きも、中国の景気減速の影響を受けることを勘案すれば、アジア新興国への進出は「チャイナリスク」をヘッジしていることにはならないことになる。事実、今年4-6月期の日本のGDP成長率は久々のマイナスとなったが、中国のみならずアジア向け輸出の減速が足を引っ張ったことが明らかになっている。中国の景気減速は、わが国にとって思わぬ形で痛手となる可能性も懸念されよう。

資料1 ASEAN主要国の輸出に占める中国向け比率の推移



資料2 わが国のASEAN6諸国向け直接投資実行額の推移



(出所) CEICより第一生命経済研究所作成  
ASEAN6とは、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナムの6ヶ国

内外経済ウォッチ